

海外安全対策情報（令和元年10月～12月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件やショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2019年1月1日から12月31日（2020年1月28日時点での最新情報）までのベラルーシにおける犯罪総数は88,378件で、前年同期と比較し5.4%増加しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗30,601件（前年比2.2%増）

（うち住宅対象侵入窃盗）8,058件（同5.4%減）

イ 公然窃盗1,423件（同2.7%減）

ウ 恐喝259件（同137.6%増）

エ 詐欺4,191件（同1.1%減）

オ 暴力犯罪4,892件（同17.0%増）

カ 殺人及び殺人未遂307件（同1.3%減）

キ 重傷傷害719件（同0.6%減）

ク 強盗123件（同8.9%減）

ケ 強姦及び強姦未遂117件（同23.0%減）

（2）邦人被害事案は報告されていません。

（3）2019年10月～12月における主な被害事案は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 10月25日、ブレスト州裁判所は、ルニネツで発生した生後8ヶ月の女児殺害事件の被告である26歳の母親に対し25年の自由剥奪、48歳の知人男性に対し死刑、また両者に10万ベラルーシルーブルの賠償金支払いを言い渡した。女に前科はないが、男は養育費未納の前科があった。この事件は2018年10月27日夜、28歳の父親が帰宅したところ、首を切られた生後8ヶ月の娘の死体を発見したもの。当時部屋では被告である母親と知人男性が酒に酩酊した状態であった。

イ 10月30日17時頃、50歳無職女性がミンスクの聖霊大聖堂正面の壁に斧を打ち付ける

事件が発生した。近くにいた男性が斧を取り上げ、警察が到着するまでの間、女を取り押さえた。女は検査のために医療機関に引き渡され、過去に服役経験があると供述している。

ウ 11月21日、2日間で50人以上が銀行口座から現金を引き出される電話詐欺被害に遭った、とグロドノ内務局情報・公共通信課が発表した。同課によると、銀行員になりすました犯人から、「ハッカーが銀行データベースに侵入し、現金が引き出されているという報告があった。カード所有者の口座からクレジット申込みや送金がされているが、カード所有者自身が行った処理でなければ、その処理をキャンセルするので、今からカード所有者の携帯電話に届くコードを教えてください。」との電話があった。その結果、カード所有者のコードが電話をかけてきた犯人に伝わり、口座から現金が消えたとのことである。警察によると、このような手口は新しくない。2019年8月にはグロドノで8人が被害に遭い、被害者のうち1人は800ベラルーシルーブルを奪われた。警察は、カード番号、有効期間、3桁のCVV番号及びインターネットバンキングのログインコードは、自己の資産保護のために絶対に他人に教えてはいけない情報である旨述べた。

エ 11月24日夜、ブレスト中央駅の休憩室で火災があり、1978年生まれの男性が火傷を負って入院し、そのほか6人が避難した旨報した。建物2階と3階にある休憩室の火災報知器が作動し、火傷を負った男性は管理人と警察によって救出された。火災は消し止められたが、休憩室にあったマットレスや寝具、室内の壁や天井は損傷した。火災原因は調査中である。

オ 12月23日、ミンスクで4人の麻薬取引者から5000万ユーロ相当、約550kgのヘロインが押収された。犯人は4人でいずれも外国人であり、11月末にミンスクで逮捕されている。内務省当局によると、彼らはアフガニスタンから欧州諸国への麻薬密輸の経由地としてベラルーシを利用することを企図していた。麻薬は工場地帯の倉庫の壁にある隠し場所に隠されていた。今回没収されたヘロインは、過去に当国で没収された麻薬の中で最も大規模なものとなる。現在犯人は監視下に置かれており、犯人の国籍は明らかにされていない。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の中の一部の情報です。定期的に報道などを確認し，自身の安全確保に努めてください。